

## 自衛隊揚陸演習

7月8日、陸上自衛隊の協同転地演習が浜大樹で行われました。

今回の演習は昨年同様、中部方面隊第13師団が海上輸送艦から輸送用エアークッション艇（LCCAC）を使い、車両や戦車を上陸するものでした。

十勝管内の自衛隊協力会の会員50人が見学場所のテントに案内され、隊員から訓練についての説明や注意を受けました。

訓練開始時刻の午前11時になると、大きな音と水しぶきをあげてLCCACが砂浜に揚陸、開いたハッチから何台もの車両が降りて上陸を果たすと、11時30分頃LCCACは再度エアークッションを膨らませ、輸送艦へと戻って行きました。

正午からは、一度目の揚陸演習が展開され、その後見学者には昼食（パン食）が支給されて見学会は終了しました。

この演習の様子は多くの報道関係者が撮影しており、後にニュースや新聞で広く報道されました。



## 台湾 大樹区ってどんなところ? Part 2

前号でご紹介しました台湾高雄市の「大樹区」(だいじゅく)につきまして、更にお知らせします。

台湾第二の都市である高雄(人口約278万人)の南西部に位置する大樹区。7年前に「同名」である我が大樹町との繋がりが生まれて以来、これまで行政・民間を含めて密接な交流を続けてきました。大樹区には三つの宝物があります。一つめは水。現地で「大樹の水」はとて有名で、「大樹の水を飲めば、太りにくくなり、また美しくなる」とも言われています。二つめはライイチ。近年は日本でも珍しくなくなっていますが、大樹のライイチは大ぶりで香り・甘みともに最高級です。そして、最後の一つがパイナップル。日本でもよく見るフィリピン産のパイナップルの二倍近い大きさで、食べると缶詰のパイナップルと錯覚するほどの甘さがあります。この三つの宝物は、大樹区の誇りでもあり、一度口にしたことのある人は皆「大樹区」の名前をもう忘れることはありません。また、毎年春には「パイナップル・ライイチ祭り」という大きなイベントも開催され、大変にぎわいを見せています。

現地で観光地として最も有名なのは「旧鉄橋」です。



観光プロモーション時、「旧鉄橋」を見学

1911年、当時日本統治下にあった台湾に赴任した建築士の飯田豊二氏によって設計が始められ、1913年末に完成したのがこの鉄橋で、当時としてはアジア最長の長さを誇りました。その後、1987年に新たな鉄橋が生まれ、大樹の交通を支え続けたこの鉄橋は、1997年に第二級古墳に指定され、現在は「旧鉄橋湿地公園」の重要なランドマークとして地元の有名な観光スポットにもなっています。もし大樹を訪れることがあれば、「三つの宝物」に舌鼓を打ち、そして日本時代から同じ長い歴史を刻んだ「旧鉄橋」を見て、100年の歴史に思いを馳せてみては如何でしょうか？

大樹町は、台湾高雄市大樹区と交流を深めています。